西浮通信

令和３年９月１日
ＮＯ．３７２
東京都北区立西浮間小学校
校長　小島　みつる

豊かな言葉と豊かな心

校長　小島　みつる

42 日間の夏休みが終わりました。今年も新型コロナウイルス感染予防のマスク着用と、即命に関わる熱中症対策両方に気を配らなくてはいけない日々でした。また、緊急事態宣言発令期間ということで夏休みの水泳指導も中止せざるを得なくなり、６年生の日光高原学園は２月に延期となりました。新型コロナウイルス感染者の「爆発的な増加」が日常となり、北区内の保育園、幼稚園、小学校、中学校の園児・児童・生徒の感染者も相当数になってしまいました。夏休み明けも同様の感染拡大が続くと、学年・学校閉鎖も視野に入れていかなくてはいけないことになるでしょう。

とはいえ、夏休み明けの西浮っ子たちの元気な笑顔を見て、楽しく充実した休みであったことが覗えました。夏休み明けに一番大事なことは、少しでも早く、規則正しい生活リズムを取り戻すことです。お医者様にそのための良い方法をお聞きしたところ、「とにかく朝起きる時間をいつも同じにすること。」だそうです。まずは、早起き！ぜひ、お試しください。

さて、今年度から始まった GIGA スクール構想での児童・生徒一人一台のパソコン配布。夏休み期間に学習に活用できたでしょうか？いろいろな場面でのデジタル化が進み、直接会えない人とでもオンラインで顔を見ながら話ができるようになったことは、現状の新型コロナウイルス感染防止対策上からはとても喜ばしいことです。しかし、デジタル化によって、本来あるべきコミュニケーションが阻害されつつあることが心配です。特にコミュニケーションの大元である「言葉」によるやりとりの力が大きく弱まってきているように思います。

本校ではこれまで、「相手の立場に立って考え、人の思いを**想像**できる子」の育成を重点に指導を進めてきました。人と人が繋がる（コミュニケーション）ためには「思いやり」が大切であり、そのためには相手の気持ちを推し量る力＝「想像力」が大切だと考えたからです。けれど、いろいろな取組みを進める中で、相手の気持ちを推し量る以前に、自分の思い、感情、感覚を言葉で説明できない子供の姿が気になるようになりました。「楽しい」「うれしい」「悲しい」以外の感情を表す言葉を知らない子･･･はまだしも、「ウザイ」「キモイ」「はぁ～？」でしか返答できない子。また、否定でも肯定でも「感嘆詞」は「ヤバ～イ！」のみであったり、メールや SNS で使われる短縮言葉が通常言語になっていたり･･･もちろん、これは、西浮っ子固有の問題なのではなく、子供を取り巻く言語環境の大きな問題でしょう。私たち人間は、「言葉」を使って考えます。国語だけでなく、算数でも理科でも社会でも、何かを考えるときには「言葉」を使って考えます。母国語（日本語の語彙）が豊かでないと、外国語を学ぶにも理解が深められません。勉強だけでなく、野球やサッカーの作戦を練るときも、感情を込めて歌おうとするときも、言葉の力が必要です。そして、その言葉を使いこなして、人とのコミュニケーションを図っていきます。

どんなにデジタル化が進もうと、直接、「言葉」を交わす経験を大切にし、そしてその「言葉」は豊かで美しい日本語を使いこなしていきたいものです。また、コロナ感染防止で、コミュニケーションの機会が減り、力も弱くなってしまっています。コミュニケーションの大元である「言葉」。言葉は使いながら学ぶのが一番です。ご家庭でも、ぜひ「ウザイ」「キモイ」「ヤバイ」「短縮語」を話し言葉から封印し、わざとちょっと難しい言葉をつかって話し、子供が「それ、どういう意味？」と聞いてきたらしめたもの、そのときにはわかりやすく説明してあげてはいかがでしょうか？豊かな言葉が、豊かな心と豊かな人間関係をつくるのです。